

キラリ★ひと言



安心して住める 豊後大野市に

緒方町 か い よし お
かみじざい 甲 斐 義 男

豊後大野市も合併して4年が経過しようとしています。

市の財政も合併時の交付税が来ると聞いていますので、大丈夫とは思いますが、大型事業である市庁舎建設が計画されていると聞いています。

私は市の情報発信源である新庁舎は必要であると思いますが、身の丈にあった庁舎であるべきと思います。

複合施設での計画と聞いていますが、将来の人口や財政を考慮してできるだけコンパクトに建設すべきと考えます。

病院統合は市と県の合意ができたと報道されました。

核となる病院は、おがた病院になるようですが、医師の確保が最重要課題と思います。

医師確保に全力で取り組んでいただきませうようお願いしたい。

わが町の将来を考えると、支所の職員が減り行政サービスがおろそかになるのではないかと、地域のイベントがなくなり住民同士のつながりが無くなるのではないかと、周辺の町は疲弊するのではないかと、心配の種は尽きません。

議会もこのような事態を真剣に考えていただき活発な議論をして、安心して住める豊後大野市にさせていただくよう願います。



遊休農地の 解消について

大野町 た なべ のり よし
や ぼる 屋 原 田 部 憲 義

農産物価格の低迷に加え、農業従事者の減少により、遊休農地や耕作放棄地が増加しています。

また、農業生産額の減少および集落機能の急速な低下が懸念されるなど、不安材料ばかり浮かび上がってきます。

大野町でも高齢化などにより、基盤整備した優良農地が、耕作放棄地および遊休農地になっており、その対策として、平成16年から焼酎原料の黄金千貫（甘藷）栽培を開始し、現在では42名で16ヘクタールを栽培するほどになりました。

甘藷は気象条件に左右されないため、安定した所得が期待できることと、遊休農地解消にもつながる反面、植えつけ作業と収穫作業が重労働のため、機械化が必要など、課題もあります。

大野町のまちおこしを検討する中で、甘藷栽培から焼酎工場の誘致を思い立ち、平成18年11月、杵築の「みろく酒造」に芋焼酎の製造を依頼し、翌年完成したのが「郷の魂」です。

平成19年12月17日、大分県知事に完成報告し、まろやかで香りがいいと感想をいただきました。

今後は、さらに生産技術の向上を図りながら、栽培面積を増やし、農家所得向上と地域活性化に繋がられるよう頑張りたいと思っています。

そして将来は、大野町に焼酎工場を誘致したい。